

### ● 編集方針 ●

CSRレポート2011は連続性・継続性を意識し制作しております。

誌面構成は、コカ・コーラが全世界共通に掲げる事業指針である「Live Positively (リブ・ポジティブリー) - 世界をプラスにまわそう -」における4領域「市場」「環境」「社会」「職場」から構成し、ステークホルダーの特に関心が高い水問題や環境への取り組みは可能なかぎり中長期的な取り組みがお伝えできるよう報告にまとめています。

### ● 報告対象期間・組織 ●

2010年(2010年1月1日~12月31日)における三国コカ・コーラボトリング(株)及び連結子会社6社、コカ・コーラシステム協力会社の活動を対象としています。

活動事例の対象期間は2011年2月までを原則としています。

### ● 発行時期 ●

本レポートは年次報告書として毎年発行しています。

前年度発行：2010年3月

今年度発行：2011年5月

次年度発行：2012年3月(予定)

### ● 参考にしたガイドライン ●

環境省

「環境報告ガイドライン(2007年度版)」

「環境会計ガイドライン(2005年度版)」

### ● ホームページへの掲載 ●

本レポートは、ホームページ上におきましても閲覧していただけるよう掲載しています。

(2011年6月中予定)

<http://www.mikuni-ccbc.co.jp>



代表取締役社長 **権名 幹芳**

私たちの事業活動エリアは、埼玉、群馬、新潟の3県です。豊かな自然と多様な文化が息づくこの地域に誇りを抱くとともに、この地域に暮らす人々との深いきずなをなによりも大切に思っています。「社会の発展と環境に貢献し、信頼され、愛される企業市民となる」という経営理念のもと、これからもグループ丸となって様々なCSR活動に取り組んでまいります。

## 地域の水資源をもっと大切に

コカ・コーラをはじめとする清涼飲料水にとって水は、事業活動において重要な生命線ともいえる原料です。

製品になる水、容器やラインの洗浄などに用いられる水——私たちの企業活動は水の恩恵によって支えられています。清涼飲料水を製造・提供する企業の社会的責任として、水資源の持続的な維持と活用は、とても大きな課題です。この1年も、これからの1年も、「水」への感謝の心を忘れず、水資源の保護や水の効率的な利用に取り組んでいます。

また、水資源保護の一環として、社員ボランティアによる

# 社会を、人を、自然を。 プラスにまわすために、さらに変わります。

植林活動をはじめ、健全な水循環における森林の役割を知ってもらうため、1999年からは地域の子どもたちを対象とした環境啓発活動、2006年よりコカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクトを行っています。

## 「安全」から生まれる「安心」を徹底

私たちがお届けする製品は、「安全」「安心」をなによりも大切にしています。

2010年4月より全世界のコカ・コーラシステムが共通で運用する新しいマネジメントシステム「KORE」\*が始まりました。「KORE」とは、コカ・コーラ社製品の調達、製造、物流・輸送、販売、回収、リサイクルにいたるライフサイクル全体にわたる「品質」「食品安全」「環境」「労働安全衛生」の4側面を網羅した独自のマネジメントシステムです。4側面におけるコカ・コーラ独自の要求事項を遵守しPDCAを回すことにより、製品・サービスを通じて、これからもステークホルダーのみなさまへ「安全」「安心」をお届けしてまいります。

## 世界共通の事業指針の視点を 三国の領域で実践

2009年より、コカ・コーラシステムは、「Live Positively (リブ・ポジティブリー)-世界をプラスにまわそう-」を世界共通の事業指針に掲げ、世界各国でより良い社会づくりに貢献する取り組みを展開しており、特に私たちの事業領域である「市場」「環境」「社会」「職場」における活動の中では、重点分野として「さまざまな消費者ニーズに合った飲料価値の提供」「活動的/健康的な生活習慣のサポート」「温暖化防止・エネルギー削減」「サステナブル・パッケージ(持続可能な容器)」「水資源保護」「地域社会への貢献」「魅力ある職場作り」の7つに定めて具体的な行動目標を設定し、社会と企業の持続的な成長の両立を目指しています。

「Live Positively (リブ・ポジティブリー)-世界をプラスにまわそう-」の事業指針に基づき、ボトラーである弊社は「製

品製造」「物流」「販売」「回収/リサイクル」といった製品ライフサイクルの役割を主として担っており、事業活動によって排出される環境負荷を抑制し、持続可能な社会実現に向けた活動にグループ全体で取り組んでいます。製造における水使用、物流におけるCO<sub>2</sub>および燃料排出、販売における電力使用量をそれぞれ抑制することや、コンプライアンス順守を根底に適正処理が必要となる空容器や廃棄機器の回収/リサイクルなど重要な課題であると考えます。

事業環境が厳しさを増す中、2010年はISO14001の運用や草の根的な取り組みを中心とした省エネ活動を推進することが出来ました。2011年は、一歩踏み込んだより効果的な環境負荷抑制への取り組みを推進致します。

三国コカ・コーラボトリングは、2010年から新しい中期経営構想に挑戦し、「夢に向かって進化するNo.1ボトラー」のビジョンを掲げるとともに、その実現に向けて「自分を**CHANGE**、仕事を**CHANGE**、会社を**CHANGE**しよう!」という意味の「**CHANGE<sup>2</sup>**」(チェンジ・チェンジ・チェンジ)の取り組みをスタートしました。一人ひとりが**CHANGE**を掘り下げ、大胆にもう一段深い**CHANGE**を貪欲に続けたいと考えています。

## 地域にしっかり根を張る社会貢献を

1966年から開始している「奨学金制度」、1968年より継続している「児童福祉施設への製品寄贈」、「環境セミナー」や各自治体様との災害協定締結、荒川河川敷の公園への「ネーミングライツ」による公民連携の環境保護・地域活性化の取り組みなど、様々な活動を行っております。地域を知り尽くしているからこそできる社会貢献に、これからもしっかり取り組んでまいります。

2013年に当社は創立50周年を迎えます。いつの時代にも、そしていつまでも、みなさまから信頼される存在であるために——三国コカ・コーラボトリングは、これからもよき企業市民として、自らを変革し、豊かな未来づくりに貢献してまいります。

\* 「KORE(Coca-Cola Operating Requirements)」  
コカ・コーラシステム全世界共通の独自のマネジメントシステム